

3月4日(土)

第19回化学工学会学生発表会（豊中大会）

3月4日(土)に大阪大学豊中キャンパスで「第19回化学工学会学生発表会」が開催されました。この発表会では、高校生・高専生・大学生のそれぞれの発表があり、物事を科学的に考えるための基礎となる知識や技能を養うとともに、コミュニケーション技術の向上などを目的としています。大学生や高専生を中心に176の発表があり、そのうち、高校生の発表は29もありました。高校生の参加数は100名を超えており、過去最大の参加者となりました。本校からは「導電性PETフィルムを使った色素増感型太陽電池の作成」と「ゴキブリの逃亡限界」の2チームが口頭発表に参加しました。

大学生や高専生の中での発表会であり、教授も聴衆として参加していたため、とても緊張した雰囲気でしたが、しっかりと自分の言葉で自分の進めてきた研究の発表ができ、さらに質問に対してもきちんと応答できました。アドバイス等もたくさんいただき、これからの課題研究につながるいい機会だったと感じています。

参加した2チームのうち、「導電性PETフィルムを使った色素増感型太陽電池の作成」が大学生や高専生も含めたすべての発表の中から優秀賞に選ばれました。

また「エンジニアリングは国造り、人造り」と題して、日揮株式会社相談役の竹内敬介氏による講演がありました。化学工学とはどういった学問なのかということや、グローバルは地球規模で物事を考えていくことであるといったことなど、これからの日本の未来についての内容でした。まずは自分自身が行動をすること、そして最後までやりきることということを強調され、生徒たちはとても刺激を受けた講演会でした。



導電性PETフィルムを使った
色素増感型太陽電池の作成



ゴキブリの逃亡限界



講演会



表彰式



優秀賞

「導電性PETフィルムを使った色素増感型太陽電池の作成」